

【様式①】令和5年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立長森東小学校

校長名 松尾 國雄

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	『目的的に学習・生活できる子』を目指して、毎日、ロイノートを英語等の授業で活用したり、宿題でスタサブを使ったりして、指導改善・方法の充実に努め、全校で教育DXを推進する。 生き方の探究学習として、生命の尊厳の理解のために、道徳の重点項目に「生命の尊さ」を位置付けたり、他教科で教科横断的に扱ったりして、内容を繰り返し指導する。	A	スタサブを活用し、学習内容の定着のため、反復練習をしている。授業でロイノートを活用し、自分の考えづくりのヒントを得たり、仲間の考えとも比べたりすることができている。90%の保護者からタブレット端末を活用することで、学習効果の向上に務めていると認めていただいている。 いじめや震災など、命の尊さを考えさせる事柄を即時に捉え、指導している。	タブレットを活用して、考えづくりをしたり、発表したりと、子どもたちの学び方が変わってきたと感じる。低学年の児童の発表の中で、撮影した動画を使って発表をするなど、工夫されており、室内以外での様子も分かり、発表の幅も広がってきていると感じた。	今後も、ロイノートの活用方法を職員間でも情報共有し、より効果的な活用がどの学年でもできるようにICT活用推進教師を中心に、今後も研修を重ねていく。 道徳の授業も含め、生命の尊さを考えさせる機会を確保していく。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	コミュニティ・スクールの組織や取組を積極的に活用し、年3回の土曜授業に家庭・地域との協働事業を計画して、実施する。 長森中校区1中4小で作成したビジョンに基づき、特に「あいさつ運動・中学生ボランティアの活用・先輩と語る会」等を意図的計画的に推進する。	A	コミスクの組織を活用して行うことができている。歩け歩け大会等、地域の方と交流する中で、地域の一人としての意識をもつことができた。夢づくりふれあいフェスタや防災教室などで、中学生ボランティアを活用している。また幼稚園との交流も計画的に行っている。80%の保護者の方に、外部人材や地域の特色を生かした教育活動を行っていると評価していただいた。	長森東自主防災隊による防災教室を6月に行った。子どもたちが防災について学ぶことで、保護者を巻き込んで、地域全体で防災対策を行っていくことが必要だと考える。今後も、防災教室に児童や、中学生ボランティアが参加していけるようにしたい。	支援推進委員会を中心に、ボランティアを計画的に募集するなど、地域人材の活用に努め、児童一人ひとりが地域の一人としての自覚がもてるような教育活動を推進していく。 長森中校区1中4小の連携を図り、「あいさつ運動・中学生ボランティア・先輩と語る会」を「意図的計画的に指導をしていく。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	月1回のいじめを見逃さない日の内容を吟味し実施したり、各教室で「ぼかぼか言葉運動」を推進したりして、思いやりのある言動が定着できるように努める。 また、全職員が出勤時に退校時刻をボードに明記し、見通しをもって勤務できるようにする。	A	各学級で発達段階に合わせてかみやき見つけに取り組んだり、6月の取組や福祉委員会の活動で、全校の仲間に対してもよさを見つける目が育ってきている。93%の児童が、いじめのない学校を目指してみんなと力を合わせて取り組んでいると自己評価している。 計画的に業務に取り組み、退校時刻が遅くならないよう意識できるようになっている。	授業参観では、落ち着いた授業態度で、仲間の話もしっかり聞いて、頑張りに対して拍手ができる姿が見られた。 子どもたちは集団の中で、喧嘩もしながらかわり方を学んでいる。アンケート調査などで学校が楽しいと思えない子に対して、学校として対応していただいていると思うが、個別の対応をていねいにしていただきたい。	これからもいじめを見逃さない日の児童自身に考えさせる活動を、いじめ対策監を中心に、継続して行っていく。 校務分掌の負担が大きくなりたくないよう確認し、組織で対応できるようにしていく。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	家庭・地域と連携して、命を守る訓練や教育相談等を計画通り、またタイムリーに実施し、発達段階に応じて「自分の命は自分で守る」・「一人で抱え込まない」・「やってはいけないことはやらない」という意識を高め、姿として身に付くことができるように指導する。	A	生徒指導の事案について、学年で対応し、家庭と連携を図っている。問題が起きたときには、児童になぜしてはいけないのか、考えさせるよう指導している。子どもたちの安全を守るための取組について、保護者の91%から、肯定的な評価をいただいている。児童の心身の安全を図るため、職員同士で共通理解を図りながら指導にあたることができた。	災害発生時に、保護者への引き渡しを行っていくことになるが、幼稚園や保育所、中学校に兄弟姉妹が通っている児童もいるため、年かさの子どもたちから引き取ることになるだろう。この場合を想定して、幼稚園や保育所、中学校とも連携した訓練が今後必要になるのではないかと、下校時の交通安全に対する意識が弱い児童が気になるので、継続した指導をお願いしたい。	生徒指導主事・教育相談Co・特別支援Coを中心として、研修等を通して、児童理解の仕方を教職員の間で共通理解し、早期発見・早期対応ができるような校内体制を確立する。 「ここのタ」を活用し、児童の心身の状態について把握し、対応する。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	本年度も、ロッカーの角のコーナーガードや、棚の固定状態等を繰り返しチェックする等、子どもにとって安心・安全な校内環境の維持に努め、できる活動は積極的に実施していく。	A	安全点検を確実にし、児童の学習環境を整えることができた。清掃活動にも力を入れ、児童自身が環境整備に努めることも大切にしている。94%の児童が清掃活動に積極的に取り組んでいると自己評価している。 各学級で、安全指導を行い、安全な過ごし方についても繰り返し指導することができた。	能登の震災から、防災に対する意識を高める必要があると感じた。 安全指導の徹底は今後も必要となってくる。校内の環境は整っている。	校務主任を中心として、日常の安全点検を確実にし、児童にとって安心・安全な学習環境が確保できるよう努めていく。 児童の安心安全を第一に考え、これからも安全管理に努めていく。

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/nagamorihigashi-e/>